

東京学芸大学 vs 日本大学

9月14日(日)
11:30K.O.
味フィ西

後期開幕戦を、3-1というスコアで敗れた東学大と勝った日大との対戦。先制しながら敗れた東学大に対し、先制されながら逆転勝利を収めた日大という、まったく逆の試合を展開してきた両チームの2試合目は!? 勝点2差の対戦だけに、熱戦が期待される。

前期を8位で折り返した東学大は前節、法大に1-3で敗れた。総理大臣杯準優勝で勢いのある法大に対し、18分に幸先よく先制点を奪ったものの、後半は相手の攻撃に圧倒されてシュート0本に抑えられ、3失点を喫した。「後半は相手のボールの出どころをフリーにしまい、プレッシャーが掛けられなくなった。前半は悪くなかったので下を向かずにやっていく必要がある」(榎山康監督)。確かに前半のリズムは悪くなかったが、流れの中から得点できておらず、東学大らしさはまだ発揮できていない。順位を落とし、前期は敗れている日大との対戦だが、既に背水の陣だ。

対する日大は前節、青学大に3-1で勝利し、前期から通算3連勝を飾った。18分にゴール前でボールを奪われ先制点を許したものの、26分と40分にセットプレーから得点し、前半のうちに逆転できたことが大きかった。後半も青学大の攻撃に押し込まれる時間はあった

が、落ち着いた守備と切り替えで追加点を奪った。「前期に引き続き、相手チームより走ることを徹底してきた。初戦で勝てたのは大きい、立ち上がりの失点が前期から多いので改善したい」(川津博一監督)。FW中野春樹(4年)が得点の、MF小林玲櫻(4年)がアシストのランキング上位に顔を出すなど得点力が上がってきたことが好調の要因。良い流れを維持していきたい。
<出場停止>永井雄介(東学大) / 3回警告:なし
<前期の対戦>東学大0-2日大

東学大		日大	
2. 吉田	16. 富澤	29. 高田	
3. 安藤	7. 平田	14. 成瀬	3. 奥村
	9. 山田	7. 廣田	19. 高山
1. 須賀	11. 五十嵐		1. 谷
	8. 菅	13. 中野	10. 小林
4. 脇本		9. 宇都宮	2. 長谷川
5. 廣木	18. 久保		27. 川島

日本体育大学 vs 産業能率大学

9月14日(日)
11:30K.O.
日立

後期は黒星スタートとなった両チームの対戦。今季初めて1試合3失点を喫した日体大は守備面の、また1失点に泣いた産能大は攻撃面の改善がなされたかどうか。

日体大は前節、東洋大に前半で3失点を喫し、1-3で敗れた。失点数前期最少の日体大は今季初の3失点。立ち上がりの3分に先制点を許し、早い時間に先行した前期最終節とはまったく逆の試合展開となってしまった。先制されたとはいえ全体的に支配率は高い中、カウンターをことごとくフィニッシュに持ち込まれ簡単に失点してしまったのは課題だ。「ボールの取られ方が悪くて速攻を受けた。悪いところが出てしまった」(倉又寿雄監督)。後半はさらに押し込み優勢に進めたが1点止まりで、後半だけで10本のCKを生かせずじまい。中断期間に改善を図ってきたという攻撃のリズムは悪くなかっただけに、逆襲への対応を見直したい。

対する産能大は前節、関学大と対戦して0-1で惜敗した。首位を争う関学大の強力な攻撃陣を、前線からの激しいプレスとコンパクトな守備で前半はシュート2本に抑えるなど健闘していたが、残り10分を切った82分についに得点を許した。ある程度、タイトで粘り強い守備は見せたと言えるが、この試合では加藤望監督が「ゴ

ールに向かう勢いが弱い。(攻撃に入った時は)はっきり人数をかけていけるようにしたい」と話したように、守備に奔走し攻撃への切り替えがうまくいかなかった。FW越智大和(1年)の不在はU-19日本代表の試合により想定内であり、それは全員でカバーしたいところ。少しでも多くのチャンスをつくり出したい。

<3回警告>藤井貴之(日体大)、楠元秀真・須永亮(産能大)
<前期の対戦>日体大4-1産能大

日体大		産能大	
2. 高野	24. 大石	30. 葛西	15. 杉崎
13. 増谷	15. 佐藤	19. 石渡	8. 浜下
	23. 小泉		
12. 馬場		17. 岡村	1. 森谷
	25. 輪笠	26. 桜井	
29. ンドカ	17. 高井		32. 木下
	11. 小山		4. 楠元
26. 福田		10. 見留	6. 遠藤

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
 Division2 2014-NO.13
 編集:五味亜矢子 発行:(一財)関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



関学大が単独首位浮上!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグの後期が開幕。いきなり上位6チームのうち3チームが敗れる波乱のスタートで、首位の神大が平国大に1-2で敗れ、産能大に1-0で勝利した関学大が今季初の単独首位に躍り出た。3位以下は、法大と東洋大がそれぞれ東学大、日体大を3-1で下して順位を上げ、3位の拓大は東農大と引き分け、4位の青学大は日大に1-3で敗れた。

関学大が初めて頭一つ抜け出した昇格争いだが、総理大臣杯準優勝の法大など追い上げを図るチームの動向も見逃せない。また、日

得点ランキング		アシストランキング	
8: 星子 直哉 (平国大)		6: 大森 勇希 (拓大)	
7: 富樫 敬真 (関学大)		5: 菅沼 優聖 (関学大)	
		伊東 純也 (神大)	
		仙頭 啓矢 (東洋大)	
6: 中野 春樹 (日大)		小林 玲櫻 (日大)	
		4: 恵 龍太郎 (青学大)	
		上長 次郎 (産能大)	
6: 中村 優聖 (関学大)			
5: 全5名			

大が前期終盤から3連勝、最下位の平国大もいきなり勝利と、下位の争いも激しく今後の行方は予想がつかない。昇格、残留争いとも面白くなりそうだ。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第12節終了時。上段が前期の対戦結果)

順位	2部	関学大	神大	法大	拓大	東洋大	青学大	日体大	日大	東学大	東農大	産能大	平国大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失	勝点
1	関学大	3○2 11/15	2○1 11/9	2○0 10/26	1●2 9/13	1●4 11/1	2△2 10/18	4○2 10/4	3○0 9/27	2○1 10/11	3△3 1○0	5○0 9/21	8	2	29	17	12	26		
2	神大	2●3 日体大G	3○1 11/2	4○0 11/9	0●1 10/5	2△2 10/18	0△0 10/26	1○0 9/28	3○1 10/11	3○0 9/13	4○0 9/21	5○3 1●2	7	3	28	13	15	23		
3	法大	1●2 横須賀	1●3 法大G	3○0 10/19	2○0 9/20	2△2 9/13	0△0 11/15	4△4 10/25	2○0 3○1	1○0 10/4	2△2 9/28	0△0 10/11	5	2	21	14	7	20		
4	拓大	0●2 古河	0●4 横須賀	0●3 味スタ西	2○0 11/2	3△3 11/15	2○0 9/27	2○0 9/20	0●3 10/4	1○0 1△1	1○0 10/11	5○0 9/13	6	4	17	16	1	20		
5	東洋大	2○1 千葉東総	1○0 青学大G	0●2 青学大G	0●2 法大G	1△1 11/9	1●2 3○1	0●1 10/11	0●1 11/15	1○0 9/27	4○0 10/18	3○2 10/25	6	5	16	13	3	19		
6	青学大	4○1 産能大G	2△2 青学大G	2△2 保土ヶ谷	3△3 産能大G	1△1 夢の島	2○0 10/11	2○1 1●3	0●2 10/25	3○0 9/20	0●1 10/5	1△1 9/27	4	3	21	17	4	17		
7	日体大	2△2 江戸陸	0△0 保土ヶ谷	0△0 日体大G	0●2 日体大G	2○1 1●3	0●2 日体大G	0△0 11/8	1○0 9/21	1△1 11/1	4○1 9/14	2○1 10/4	4	3	13	13	0	17		
8	日大	2●4 日体大G	0●1 法大G	4△4 平国大G	0●2 千葉東総	1○0 東洋大G	1●2 3○1	0△0 江戸陸	2○0 9/14	1△1 11/15	3○0 11/1	0●2 10/18	4	5	17	17	0	15		
9	東学大	0●3 東洋大G	1●3 日体大G	0●2 1●3	3○0 法大G	1○0 東学大G	2○0 早大G	0●1 日体大G	0●2 味フィ西	0●1 10/18	1△1 11/8	3○2 11/1	4	7	12	18	-6	13		
10	東農大	1●2 産能大G	0●3 保土ヶ谷	0●1 法大G	0●1 1△1	0●1 東洋大G	0●3 青学大G	1△1 日体大G	1△1 東学大G	1○0 千葉東総	5○0 10/25	1○0 11/9	3	6	11	14	-3	12		
11	産能大	3△3 0●1	0●4 BMWス	2△2 法大G	0●1 産能大G	0●4 青学大G	1○0 青学大G	1●4 日立	0●3 産能大G	1△1 たつこ	0●5 東国大G	6○4 11/15	2	7	3	14	32	-18	9	
12	平国大	0●5 日体大G	3●5 2○1	0△0 東洋大G	0●5 川口	2●3 平国大G	1△1 日体大G	1●2 日体大G	2○0 川口	2●3 日体大G	0●1 たつこ	4●6 産能大G	2	8	2	17	32	-15	8	

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

ただ、自分に勝ちたい。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



RECRUIT

拓殖大学 vs 平成国際大学

9月13日(土)
11:30K.O.
川口

後期初戦で勝点を記録したチーム同士の対戦。平国大は首位の神大を2-1で破る金星を挙げたが、拓大はドロースタート。前期は拓大が大勝しているこのカード、平国大は降格圏からの脱出に向けても、拓大に雪辱して勢いをつけたい。

拓大は前節、東農大と対戦して1-1で引き分けた。前期終盤の好調のイメージを持ち込み、特に前半は優勢に試合を進めた。しかし、攻撃のリズムなど全体的には悪くない内容ではあったものの、得点は1、勝点も1にとどまった。「新しい選手も機能してボールを支配できた時間が長かったし、悪くなかったが1点では勝てない。2点以上取って勝ち切りたい」(玉井朗監督)。リズムは悪くないものの、結果としては流れの中から得点できておらず、今節で仕切り直しとしたいところ。いかに多くの枚数で相手ゴールに迫っていけるか、上位争いに食らいつくためにも勝ち切る力が必要だ。

対する平国大は、神大にいきなり試合開始2分で先制を許したものの、後半に2点を奪って逆転勝利を収めた。前期は、失点するとズルズルとリズムを崩して連続失点するケースが目立ったが、前節は失点のあとも落ち着いて対応し、積極的な試合運びで相手のミスも誘った。

。「失点はあったが、結果としてはこれ以上ない後期のスタート。ただ、失点0を目指しているので締め直して、きつい時間帯にもしっかり判断してプレーすることが課題」(西川誠太監督)。今節は守備の要を出場停止で欠くが、いかに最終ラインに負担をかけない守備がチーム全体でできるかどうか。

<出場停止>小松崎雄太(平国大) / 3回警告:三浦勇人・多田和明(拓大)
<前期の対戦>拓大5-0平国大

拓大	平国大
13. 新山	3. 竹内
7. 大森	15. 須貝
6. 紙谷	16. 高島
5. 谷之口	7. 尾林
8. 菅能	9. 星子
18. 河野	22. 横瀬
14. 宗像	21. 馬屋原
3. 三浦	10. 堀越
30. 小野瀬	6. 鎌田
33. 池田	20. 村川
	2. 増田
1. 佐川	

青山学院大学 vs 法政大学

9月13日(土)
11:30K.O.
保土ヶ谷

夏の総理大臣杯に関東代表として出場してきたチーム同士の対戦であり、昇格争いへ向けてのライバル対決でもある重要なゲーム。勝点差は3。攻撃的なチーム同士、点の取り合いとなるか。

青学大は前節、日大に1-3と逆転負けを喫した。上位2チームについていくため良いスタートを切りたかったところだが、下位チームに勝ち切れない脆さが初戦で出てしまった。内容的には目指す攻撃の形を何度もつくり出し、宮崎純一監督も「自分たちのスタイルからフィニッシュまで行けていた」と一定の評価をしたものの、「相手チームの“勝とう”という気持ちが上回った試合だった」と振り返ったように、相手の粘り強い守備に阻まれた。前期もそうだったように、いかにフィニッシュまで運んだボールをゴールにつなげるかが課題。前期も点を取り合い痛み分けとなった法大を相手に、攻撃で先手をつかみたい。

その法大は前節、東学大に先制を許しながらも3-1と逆転勝利を飾り、再び3位に浮上した。長山一也監督が「予想していた以上に試合の入り方がよくなかった」と話したように、序盤は相手に主導権を握られ、FKを与えて18分に失点した。しかし、そこから盛り返して

勝利まで持ち込んだことは、総理大臣杯を経験したことによる前期からの成長点だろう。アクシデントもあったが前半で2人を交代させてリズムを変え、後半は相手にシュートを打たせず、逆に3点を奪った。「隙を見せず、先に仕掛けられるゲームをしていかなければいけない」(長山監督)。前線にボールが収まり安定した攻撃を組み立てており、上位2チームの追撃態勢に入りたい。
<3回警告>永戸勝也・青島拓馬・西室隆規(法大)
<前期の対戦>青学大2-2法大

青学大	法大
16. 諸井	27. 山田
7. 荒木	8. 三田
3. 御牧	17. 角宮
18. 山田	26. 伊藤
1. 高橋	28. 柳沢
8. 伊藤	9. 相馬
25. 水島	18. 鈴木
10. 関谷	25. 西室
11. 恵	22. 田代
2. 堤	6. 星
	2. 永戸
	21. 富澤

関東学院大学 vs 東洋大学

9月13日(土)
11:30K.O.
千葉東総

白星スタートを切ったチーム同士の対戦。接戦をモノにして単独首位に立った関学大と、3-1で完勝して順位を上げた東洋大との今季注目のカードだ。

関学大は前節、産能大に1-0で競り勝った。前半は相手の厳しいプレッシャーを受け、強力な2トップにも効果的なボールをなかなか供給できず、シュートも2本に抑えられた。それでも焦ることなく攻撃を組み立て、ついに82分に貴重な1点を奪った。「相手のDFラインが強かったが、守備の意識を持ちつつ攻撃ができた。後期はこのような苦しい試合ばかりになると思う」(石村大監督)。首位と勝点で並んで折り返すという過去最高の成績に、後期初戦の戦いぶりが注目されたが、前期は3点リードを追い付かれた産能大との対戦に良い緊張感を持って臨めたようだ。初戦で勝点3を得たのは非常に大きい。今節は前期に逆転負けを喫している東洋大が相手。前節のように、焦らず攻撃を繰り返したい。

その東洋大も前節は、日体大を3-1で下して白星スタートを飾っている。試合開始3分での先制点を皮切りに、35分、42分とFW遊馬将也(3年)が立て続けにゴールを決めて前半だけでハットトリックを達成した。先制点を取った後の前半も相手に押し込まれる時間は長か

ったが、ボールを奪ってからの逆襲をことごとくゴールにつなげたという効果的で決定力の高い攻撃であった。

「90分の中で隙をなくそうと取り組んできて、先制した後は押し込まれてきつそうだったが、しっかりリードを保つ戦い方をしてくれた」(古川毅監督)。攻守のメリハリが効いているのが東洋大の長所。首位チームを倒して昇格圏内に肉薄したい。

<3回警告>小山大貴(東洋大)
<前期の対戦>関学大1-2東洋大

関学大	東洋大
6. 福澤	16. 石坂
8. 普光院	9. 川森
3. 原島	18. 萱沼
1. 井田	4. 郡司
7. 太田	7. 斉藤
23. 長谷川	20. 仙頭
	22. 伊藤
19. 山口	18. 遊馬
9. 富樫	25. 徳市
	12. 瀧澤
11. 中村	10. 平石
16. 木村	2. 池田

神奈川大学 vs 東京農業大学

9月13日(土)
13:50K.O.
保土ヶ谷

後期初戦で敗れて首位を陥落してしまった神大と、引き分けスタートとなった東農大との対戦。どちらも早めに後期初勝利を手にした。神大の強力な攻撃力に対し、東農大は少ないチャンスから得点を狙いたい。

神大は前節、最下位の平国大に先制しながら1-2と逆転負けを喫した。リーグ再開に際し、コンディションの面など不安材料が結果に出てしまった格好だ。試合開始2分で先制点を奪い、全体的には主導権を握ってはいったものの、先制点以降は決定力を欠いた。また、前がかりになったスペースを突かれてからは押し上げが鈍くなり、受け身にまわってしまう時間帯もあった。「相手の気迫に負けてしまったようなゲーム。動きも固かった」(松永道敬総監督)。後半の立ち上がりにはPKのこぼれ球から追い付かれ、終盤はゴール前でのミスから逆転を許した。ただ、本格的な昇格争いはまだこれから。「上を見てチャレンジし続けていきたい」(松永総監督)。

対する東農大は前節、拓大と対戦して1-1で引き分けた。攻撃力のある拓大の攻撃は、直接FKを決められた1失点に抑えたが、前期からの課題として得点力が低く、1点を返して追い付くのとどまった。後半は攻撃的な選手交代を重ね、追い付いてからは主導権を握った

ものの、2点目を奪うことはできなかった。「拓大の攻撃を前半無失点に抑えられたのは良かったが、最後にもう1点取りたかった」(秋吉保浩監督)。前期はほとんど不在であったMF浜田翔(4年)が完全復帰し、攻撃の時間帯は前期より増えている印象だが、今節はいかに神大の攻撃の隙を狙って狙って逆襲できるかが鍵だ。
<出場停止>中西孝太(東農大) / 3回警告:杉山祐亮(神大)、小田原貴・金裕志(東農大)
<前期の対戦>神大3-0東農大

神大	東農大
3. 高木	17. 徳田
11. 星	22. 倉林
4. 藤原	20. 加藤
16. 武田	10. 浜田
1. 阿部	12. 榎原
14. 芦野	23. 山本
10. 伊東	21. 松尾
8. 盛	25. 金
30. 西袋	5. 櫻岡
22. 伏木	14. 石川
7. 長野	3. 加藤